WS 5	抗いの所産：現代日本文学短篇探訪　※講義の後に討論あり
	【定員】 30名　【受講料】 2年・1年会員ともに9,270円　聴講生10,810円
	『歴史・文学・人間学』【ワークショップ】 文学　【時　間】 毎回　13時00分～　15時00分　（計6回）
概要	小説の内容や方法論など多様なかたちで発表された時代の要素を多分に含むものであると同時に、古臭さを感じさせない現代に響く言葉の連なりとしてある現代日本作家たちの短篇を読み直していくワークショップです。個々の読みをそれぞれの言葉で言語化することに努め、講師の解説を受け、他の受講生と交流することを通して、読みを深めることを目指します。

回	月/日(曜)	会　場	学　習　内　容	講師名(敬称略)
	10/ 2(水)	川崎市 生涯学習 プラザ	ガイダンス	運営世話人
1	10/ 9(水)		安部公房「S・カルマ氏の犯罪」1951年（『壁』新潮文庫） 壁と笑い：作者自身の小説に対する「姿勢を大きく変え」、その後の長編の方法論にも通ずるものとなった初期短篇の「壁」という創作戦略について着目しながら、本作を読み直す。	相模女子大学講師 安藤史帆
2	10/23(水)		三島由紀夫「百万円煎餅」1960年（『花ざかりの森・憂国』新潮文庫） 欲望と浅草：作者自身に「ダンディスムの所産」と解説せしめ、長編、戯曲を生み出す契機となった短篇の問題を掘り下げつつ、そのうち一作品として本作を読み直す。	
3	11/13(水)		倉橋由美子「河口に死す」1971年（『反悲劇』講談社文芸文庫他） 神話と秩序：「悲劇と小説とに関する一種の批評」と作者に位置づけられる連作一篇としての本作について、反小説的な物語としてある悲劇的神話の書き直しの試みという観点から読み直す。	
4	11/27(水)		高橋たか子「ロンリー・ウーマン」1974年（『ロンリー・ウーマン』集英社文庫他） 狂気と孤独：緩やかな繋がりを持つ連作としても、一短篇としても読める本作について、作者のいう「従来の女性イメージへの抗議」を参照しながら、狂気と幻想という観点から読み直す。	
5	12/11(水)		向田邦子「花の名前」1980年（『思い出トランプ』新潮文庫） 悲哀と欺瞞：「誰もが真似できぬ辛苦の世界」と評される本作について、日常に渦巻く感情の揺れ動き、葛藤、脆さと危うさの描写と「花」というモチーフに着目しながら読み直す。	
6	1/22(水)		村上龍「地獄に落ちた勇者ども」1995年（『とおくはなれてそばにいて』ベストセラーズ）★ 恋愛と退廃：恋愛小説、短篇という形式を取りながら、「愛」や「自由」の「息苦し」い「不安」という主題を伴う本作について、自由・束縛、自立・依存の関係と時代背景を絡め合わせて読み直す。	

連絡事項	ガイダンスに講師は出席しません。 ★：希望者には事前に講座内で配布します。資料代として別途集金させていただきます。